

658. Amoituuta mama, XII

福原満洲雄(九大)

1. Injitzinsky ハ最近遂ニ非線形方程式ニ手ヲ着ケタ。

即チ

Non-linear difference equations, Compositio Mathematica, vol. 5 (1937) pp. 1-66.

Theory of non-linear singular differential systems, Trans. Amer. Math. Soc. Vol. 42 (1937) pp. 225-321.

カソレテアル、定差方程式ニツイテモ書ヒタイコトガアルガ、手がマワリ切ラナイカラ機会ガアツタラ其ノ方面ニモ言及スルコトニシテ、コレデハ微分方程式ノ方知ケニ限ツテハラバラット頁ヲ繰ツテ見タ後ノ感想ヲ述ベヨウ、詳シク読ンダノデハナイカラ誤解ガアルカモ知レナイ。若シアレバ氣付カレタ時御注意ヲ頂ケレバ幸デアアル。

前ニモ書イタコトガアルマデニ彼ノ研究ハ本格的デアアル、彼ガ扱フ内題ハ現在ノ流行カラハ可成リハナレタモノ知ト言

ハレルカモ知レナイ、併シ流行=惑ハサレルコトナク、微分
 方程式論=於ケル中心問題ヲ次カラ次ヘト片付ケテ行カウト
 イフ態度=ハ賞讃ノ辞ヲ惜シムベキデハナイ、其ノ証明ヲ結
 果=ハ多少ノ不満ハアルケレドモ

2. 先ヅ最初=彼ハ

$$(A) \quad t^{-p} y_j'(t) = a_j(t, y_1, \dots, y_n) \\
 (j=1, \dots, n; p \text{ハ整数} \geq 0)$$

ヲ論ヅテキル。(A)ノ右辺=開シテハ

$$a_j(t, y_1, \dots, y_n) = l_j(t, y_1, \dots, y_n) \\
 + q_j(t, y_1, \dots, y_n)$$

$$l_j(t, y_1, \dots, y_n) = l_{1j}(t) y_1 + \dots \\
 + l_{nj}(t) y_n$$

$$q_j(t, y_1, \dots, y_n) = \sum_j a_{i_1 \dots i_n}(t) y_1^{i_1} \dots y_n^{i_n} \\
 (i_1, \dots, i_n \geq 0; i_1 + \dots + i_n \geq 2; \\
 j=1, 2, \dots, n)$$

係数 $l_{ij}(t)$, $j a_{i_1 \dots i_n}(t)$ ハ $t = \infty$ = 於テ正則 (或
 ハ t^{-1} ; 負ノ冪ヲ含マナイ冪級数=漸近的=展開サレル解析
 函数), 級数ハ y_1, \dots, y_n, t^{-1} が十分=小サイトキ一
 様収斂ト假定スル、デアレ、更ニ次ノ假定ガハイッテキ
 ル。

It will be assumed that the linear
 system obtained by letting $q_j = 0$ (j
 $= 1, \dots, n$) is actually of order n , and
 that it is not of Fuchsian type.

以上が最初ノ第一頁ニ書カレタ假定デアアル。然ル
後

The analytic theory will be developed
for the complex neighbourhood of the singular
point $t = \infty$

ト書イテキル、コレデコノ論文ノ内容ニ関シテ大体ノ見當ハ
ツク。

3. 以上述べタ假定ノ中デ特ニ注目スベキハ原文ノ儘
引用シタトコロデアアル。actually of order n トイフ
コトハドウイフ意味カ知ラナイが大シテ問題ニスル程ノコト
モナカラウ。ソレヨリ重大ナノハ

$$(LA) \quad t^{-p} y_j'(t) = l_j(t, y_1, \dots, y_n) \\ (j = 1, \dots, n)$$

カFuchs型デナイトイフ假定ヲ何故該ケタカトイフコト
デアアル。

彼ハ $t \rightarrow \infty$ ノ時 e^{at^p} ノorderデ 0 ニナル解ガ
ケヲ目標ニシテキルノデアアルト自分ハ想像シタ。ソレナラ出
来テモ感心スル程ノコトハナイ、難シイノハ e^{at^p} ヨリ低イ
orderデ 0 ニナル解ノ方ダカラデアアル。コノ兩者ノ間ニ
ハ難易ニ格段ノ差ガアルコトハヤツテ見レバ自ら了解サレル。
併シ易イ方サヘモ、ソレガ中心的ナ問題トシテノ極値ヲ持ツ
テキルニモ拘ラズ、片ガ付イテキナカッタノダカラ呆レルノ
他ハナイ、ソレハ兎ニ角トシテ先ヘ目ヲ移シテ行カウ。

4. 先ツ形式的ノ解ヲ求メル必要ガアル。ソレヲ彼ガド
 ヲイフ風ニ扱ツテキレカト思ツテ、ソノ点ヲ注意シテ見ル。
 形式的ノ解ヲ求メルニハ直接ニソレヲ求メルヨリ、豫メ適當
 ナ変換ヲ行ツテ方程式ヲ簡單ナ形ニ導キ、ソノ解ヲ求メ然ル
 後原方程式ニ戻ルオガ方法ガ組織立ツコトヲ前ニ注意シタ
 コトガアルガ彼ハ未ダコノ方法ヲ使ツテ居ナイ。

(LA) ハ線形デアアルカラ既ニ解カレタ、ソノ形式的ノ解
 トシテハ係数ガ t^{-1} ノ冪級数デアルマウナ $\log t$ ノ整
 多項式 $= t^{\nu} e^{Q(t)}$ ($Q(t)$ ハ t 右ノ整多項式、 ν ハ正
 ノ整数、 γ ハ常数) ガカカツタ形ノモノガ丁度 n 個得ラ
 レル。

(LA) ガ Fuchs 型デナイカラ $Q(t) \neq 0$ デアルマ
 ウナモノガアル。特ニ t ガ適當ナ領域ノ中カラ ∞ ニ近
 ザフトキ $e^{Q(t)} \rightarrow 0$ トナルマウナモノガ有ル、ソレヲ
 $Q_1(t), \dots, Q_m(t)$ 、残りノ $Q(t)$ ヲ $Q_{m+1}(t), \dots$
 $\dots, Q_n(t)$ トスル。 $Q_\lambda(t)$ = 對應スル (LA) ノ解
 ヲ

$$y_j = 0 y_{\lambda_j}(t) \quad (j=1, \dots, n; \lambda=1, \dots, n)$$

トスレバ (1) ハ 0 = 收斂スル解トシテ

$$y_j = \sum_{\lambda=1}^m C_\lambda \circ y_{\lambda_j}(t) \quad (j=1, \dots, n)$$

ヲ持ツコトニナル。ソコテ (A) ノ解ハ C_1, \dots, C_m ノ冪
 級数ニ展開スレルモノトシ。ソレ等ニ關シテ一次ノ項ノ係数
 トシテハ $0 y_{\lambda_j}(t)$ ヲ取ルコトニスレバ、ソレ等ニ關シテ

2次又ハソレヨリ高イ項ノ係数ハ未定係数ノ方法ニヨリ次第ニキマツテ行クノデアアル。ソノ場合 $C_1^{k_1}, \dots, C_m^{k_m}$ ノ係数ハ係数ガ t^r ノ冪級数(項ノ冪ヲ含マナイ)デアルヤウナ $\log t$ ノ整多項式ニ

$$t^{k_1} P_1 + \dots + t^{k_m} P_m \quad e^{k_1 Q_1(t) + \dots + k_m Q_m(t)}$$

ガカカツク形ニナルコトガ Lemma 4 (p. 258)ニ述ベテアル、コレガカラ簡單ナデアアル。orderノ低イ解ニナルト、ソノ係数ノ中ニ $\log t$ 奇リデナク、 $\log \log t$, $\log \log \log t$, \dots ナドモ現ハレテ来ル。ソレデモ 0ニ収斂スル解ガケテ考ヘルナラバ割ニ簡單ダト思フ、困難ナ問題ハソノ先ニアルコトヲ知ラナケレバナラナイ。

B. 次ニ形式的ノ解ヲ漸近展開トスル解ノ存在デアアル。ソレガ The First Existence Theorem (p. 274)デアアル。イヌリツクテ書イテアル部分ガケデモ一頁一杯ヲ費シテキルガ、ソコガケ鬼テモハツキリ余ラナイ。シカシ全ク余ラナイノデモナイ。先ツ氣ガ付クコトハ考ヘテキル t ノ領域ガ $R_1(t)$, $R_2(t)$, \dots , $R_n^2(t)$ ノ間ニ順序ガツク(大小關係ニヨツテ)コトヲ假定シテキルコト。次ニ

$$e^{Q_i(t)} \sim 0 \quad (i=1, \dots, m)$$

$$Q_i(t) = g_i t^{k_i/k_i} + \dots \quad (i=1, \dots, m; g_i \neq 0)$$

トシ

$$l' = \frac{l_1}{k_1} = \dots = \frac{l_m}{k_m} > \frac{l_{m+1}}{k_{m+1}} \geq \dots \geq \frac{l_m}{k_m}$$

($1 \leq m \leq m$)

ナル假定ヲシテキル。コノ他ニモ假定が書イテアルが特ニ注目スルニハ及バナイト思フ。然ルトキ前ニ得テ形式的ノ解ニ於イテ C_{m+1}, \dots, C_m ヲ置イテ得ラレル形式的ノ解ヲ漸近展開トスル (A) ノ解が存在スルトイフノ結論デアアル。

此ノ結論ヲ得ルニハ假定が強スヤル。コレダケノ假定ノ下ニ於テハ結論が不足デアルト思フ。余リ長クナルカラ此ノ定理ニ関係スル自余ノ予想ハ次回ニ譲ルコトニシテ定理ノ証明ニ目ヲ移スコトニシヨウ。

6. 形式的ノ解ヲ途中テ切ツテ変換ヲ行フコトハ自余ト同様デアアル、結局カウセガルヲ得ナイノデアアル。扱テ変換サレタ方程式ノ解ノ存在ヲ如何ニ片付ケテ居ルカト思ツテ見ルト逐次近似法デアアル。勿論勞カヲ厭ハナケレバ、ソレデモ出來ル、逐次近似値ノ絶対値ノ上界ヲ出サナケレバナラナイカラ直接ニ存在定理ヲ使フヨリ面倒デアアル、ソレダケ先ノ見透シが利カナイコトモ事實デアラウト思フ、コレデ *Trjitzinsky* ノ研究ガドノ程度ノモノカ余ツタマウニ思フ。

彼ハ続イテ (A) ノ右辺ガ ϵ ヲ含マズ且ツ $p=0$ ノ場合ヲ特ニ (B) トシテ調べキル、(B) ニ関スル定理ガ *The*

Second Existence Theorem デアル。又同様ナ
問題ヲ 補助変数ヲ 含ム方程式 (c) = ツイテ 論ジテキル。
コレ = 開タル 定理ガ *The Third Existence*
Theorem デアル。此レ等モ大体 *The First Existence*
Theorem ト同ジ程度ノ 思ヘバ 大シク 間違ヒハナカ
ラシ。